

淡水產貝類

淡水産貝類概説

福井県の淡水貝類は、汽水域、亜種を含め、4目17科40種が記録されている。この中から、種の特性と生息確認地点数、種の生息地の河川や海岸の護岸工事、道路建設、水田整備事業の進捗状況等の地域性を考慮して、県域絶滅は3種、県域絶滅危惧 類は3種、県域絶滅危惧 類は5種、県域準絶滅危惧は3種、県域要注目は1種を選定した。

県域絶滅種6種のうち、カワシンジュガイは、1970年頃の河川改修により生息地の河川環境が大きく改変され絶滅している。カワネジガイは県内2カ所で生息が確認されていたが、1972年の武生市の農業用水池の改修後は生息が確認されていない。ヒダリマキモノアラガイは、福井県での採集記録は、唯一、坂井郡木部産の一個体のみである。過去の生息河川内や堤内地の湿地等の再調査から、護岸工事、圃場整備事業等による生息地改変状況から生息しないものと考えられる。

県域絶滅危惧 類のカラスガイも、三方湖に生息していたが、第二次の「福井県のみどりのデータバンク」調査時にも確認されていない。100%に近い護岸工事の進行、アオコ等の異常発生等水質が汚染されて、生息環境が保全されているとは考えにくい状況である。また、琵琶湖固有種のササノハガイの三方湖産標本、江や三方湖産のトンガリササノハガイ標本が、福井市自然史博物館に残されているが、1985年時の調査時やそれ以降も生息が確認されていない。ササノハガイは移入された種と考えられる。

県域絶滅危惧 類のカワグチツボは、久々子湖の一部分しか生息していない。フクイマメシジミは2カ所の沼地等と生息地が限定され、細々と生きながらえているのみである。生息地の環境変化ですぐにも上位の絶滅危惧にランクされる。マツカサガイやカタハガイも九頭竜川本流域や一部の小河川に生息する種である。近年の河川改修、上流域の大型工事による水質汚濁が、激減の最大の要因である。

準絶滅危惧としたモノアラガイは、第一次の調査時より激減した種である。清流に生息する種としての指標であり、生息地の減少は県内河川の汚染が進行している証拠となる。マルタニシは県内の水田のパイプライン化圃場整備が進み、早場米産地として、お盆過ぎからの乾田化のために急激に減少している。また、嶺南の河川に多くの分布域をもっていたイシマキガイも減少している。

要注目種は、唯一、福井県を模式産地とするフネドブガイである。このフネドブガイは、三方湖で確認された種(黒田,1933)であるが、文献のみで、過去の調査でも確認されていない。フネドブガイは、今後の精査が必要であるので、要注目とした。

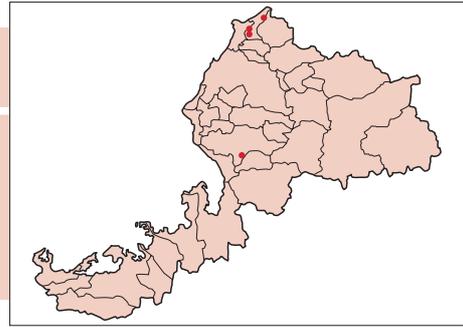
なお、現在のところ減少傾向にはないが、ホタルの幼虫の餌となるカワニナ類、タナゴ類の産卵母貝となるイシガイ、ドブガイ類は、県内の池沼に生息している。しかし、最近の河川改修や護岸工事は大がかりであり、淡水貝類生息地の環境変化も深刻である。さらに、市街化の進行と共に、用水路や河川に、雑排水が多量に流入し、水質汚濁がひどくなり、貝類の繁殖できる水環境が減少している。生態系の一部を担う貝類の保全を図る必要がある。

(長谷川 巖)

カワネジガイ

基眼目ヒラマキガイ科
Camptoceras terebra hirasei Walker

福井県カテゴリー 県域絶滅
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特性

殻高は約10mm，太さ約3mmの微小な淡水性巻貝。殻は細長く，薄質で著しくねじれているのが特徴。多くの巻貝が右巻きであるのにこの種は左巻。

河川のワンド等の流れの緩やかな水域の，ヨシやマコモ等の抽水植物の水中部分の茎や枯葉，水底に沈んだ朽葉や朽木に付着している。

生息状況

本州，四国の30数地点に局所的に分布。既知の全ての生息地で生息条件が著しく悪化しており，個体数が危機的水準まで減少している。

県内では，過去に芦原町北瀧湖，坂井町布目，坂井町本庄，武生市大塩町での採集記録があるが，1972年の武生市大塩の農業用水池での採集を最後に生息が確認されていない。

存続を脅かす要因

河川改修，生活雑排水による生息環境の改変が主な減少の要因である。

ヨシやマコモなど抽水植物の豊かな水域の減少も一因である。

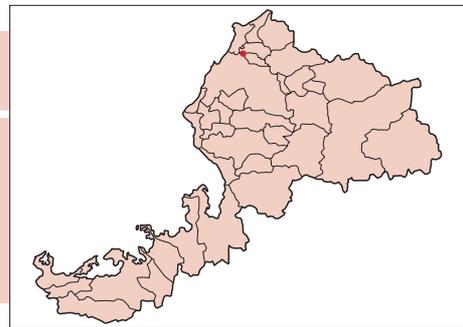
参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．
福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．141pp．福井県．

ヒダリマキモノアラガイ

基眼目ヒラマキガイ科
Culmenella prashadi (Clench)

福井県カテゴリー 県域絶滅
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特性

殻高6mm，殻径3.4mm内外の小型種で，太く，殻表には細い螺肋がある。左巻貝殻は体層が発達し，各螺層はねじれ，縫合が著しく凹んでいる。殻口は大きく下に開いている。軟体部は黄褐色だが，暗赤色もある。

生息状況

青森県から東京都，静岡県，福井県，群馬県，長野県，滋賀県，大阪府等に飛び石的に分布。池沼のヨシ帯やマコモ，カナダモ等の沈水植物があるところに生息する。県内では坂井町木部での採集記録があるのみで，近年生息確認はできていない。

存続を脅かす要因

水質汚染による沈水植物の減少と，河川改修等による用排水路のコンクリート化による生息環境の悪化が主な要因である。

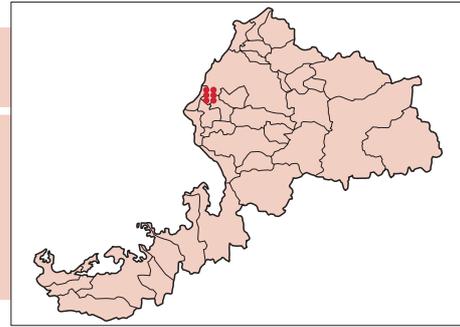
参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．
日本水産資源保護協会．1998．日本の希少な野生水生生物に関するデータブック．437pp．水産庁．

カワシンジュガイ

イシガイ目カワシンジュガイ科
Margaritifera laevis (Haas)

福井県カテゴリー 県域絶滅
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特性

長楕円形の殻は厚く堅固。殻頂は前方に寄り、前縁は丸く、後縁は後腹方へ傾き、多少湾曲する。山間溪流の流速の比較的早い砂礫底や礫底に生息する氷河期遺存種である。

殻長は10cm前後の黒色の淡水二枚貝。殻の内面は青味がかった真珠光沢。

生息状況

北海道、岩手県、栃木県、長野県、広島県、岐阜県に局所的に分布。国外では北半球の寒地に広く分布する。県内では味見川にのみ生息していたが、1970年頃の河川改修以後は生息が確認されていない。

存続を脅かす要因

生息地が局所的であることから大規模な河川改修等により生息地が消失すると復元が困難。また、生活排水、農業等による水質汚染や幼生の寄主であるヤマメ・アマゴなどのサケ科魚類の生存の減少も要因となる。

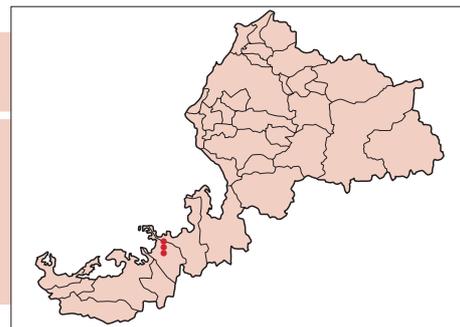
参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．
福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．141pp．福井県．

カラスガイ

イシガイ目イシガイ科
Cristaria plicata (Leach)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特性

殻長が最大で30cm、普通は15～20cm程度の大型淡水二枚貝。幼貝に后背縁上に低い翼状突起があり、成長と共に低くなるが、波状の皺となって残るのが種の決め手。殻は薄く、光沢のある緑褐色から黒褐色。色や形態から、二枚の貝殻の交歯のないドブガイとよく間違えられる。

3月から7月に産卵。雌の鰓葉内で受精し、グロキディウム幼生となって魚の鱗に寄生する。生息地底質は泥質が中心で、多少砂が混じる程度まで生息。

生息状況

北海道から九州にかけて、平野部の湖沼や大河川の下流域、海岸部の潟湖やそれを起源とする湖沼に生息。他種より塩分耐性が強い。

県内では三方湖、菅湖、水月湖に生息していたが、1985年頃以降生息が確認されていない。

存続を脅かす要因

止水域の埋め立て、湖沼の護岸工事などによる生息環境の直接的改変、および底質の変化や生活廃水の流入などによる湖沼の水質悪化が主な要因である。

参考文献

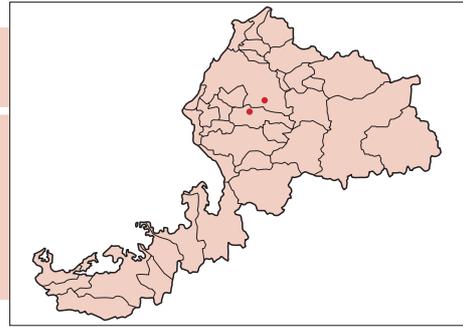
窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．
福井県．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

トンガリササノハガイ

イシガイ目イシガイ科
Lanceolaria grayana cuspidata (Kira)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特徴

殻長が80mm，殻高20mmの殻高に対する殻長の比が非常に大きく，淡水貝中最も細長い黒褐色の笹葉形二枚貝．殻頂は著しく前に偏り，前縁は丸く後縁は尖り腹縁は，多少上昇する．

ササノハガイの地方型．ヒガイの産卵母貝となる．

生息状況

日本，シベリア，中国に分布．県内では福井市自然史博物館に 江市吉江，三方湖，久々子湖の標本が残されている．1985時頃は 江市浅水川，福井市六条川，一乗川で確認されたが，1998年時頃には県内どこにも生息が確認できなかった．

存続を脅かす要因

河川改修，湖沼の護岸工事等による底質の変化，生活廃水の流入等による水質悪化が主な減少要因である．

参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

紀平 肇・松田征也．1990．琵琶湖・淀川の淡水貝類．134pp．たたら書房．

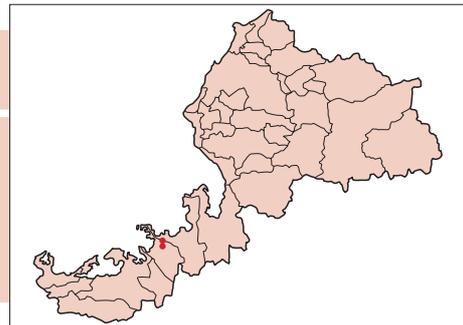
福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

ササノハガイ

イシガイ目イシガイ科
Lanceolaria oxyrhyncha (Martens)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特徴

殻長が80mm，殻高30mmの台形（ササの葉）状で後端がとがる淡水二枚貝．殻頂から後腹隅にかけて強いうねがある．殻は幼貝で淡黄色であるが，老成すると黒褐色になる．

生息状況

琵琶湖・淀川水系の固有種で，琵琶湖，瀬田川，宇治川，淀川，余呉湖に分布．県内では福井市自然史博物館に 江，三方湖，久々子湖の標本が残されているが，1985年に数少なく確認されたが，1998年頃の第二次「福井県みどりのデータバンク」調査では確認できていない．琵琶湖の移入種と考えられる．

存続を脅かす要因

止水域の埋め立て，湖沼の護岸工事等による生息環境の直接的改変，および生活廃水の流入等による湖沼の水質悪化や底質の変化が主な要因である．

参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

日本水産資源保護協会．1998．日本の希少な野生水生生物に関するデータブック．437pp．水産庁編．

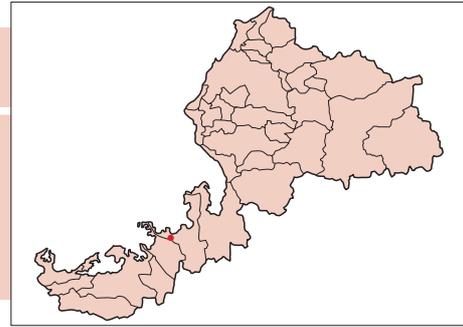
カワグチツボ

中腹足目ワカウラツボ科

Iravadia elegantula (A. Adams)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特性

殻高8mm内外、殻径2.3mm、巻数5回の薄質の長卵形の淡水巻貝。螺層は膨らみ、縫合は浅い。螺肋は弱く密にある。殻色は淡黄褐色から黒褐色まであり、ワカウラツボとは異なり蓋の内側に肋状付属物がない。黒田が1957年に確認してから、40年ぶりの1998年に生息が再確認された。

生息状況

北海道から九州までの内湾や河口の、潮溜まりの緑藻に付着する。県内では、唯一久々子湖の野球場南側の三方高校のカッター置場際の約50㎡のアシ原の緑藻の中に生息している。

存続を脅かす要因

高塩性の河口付近や湖沼に生息するため、河川や海岸の護岸工事による生息環境の改変の影響を受けやすい。県内唯一の生息確認地は自然観察道や野球場等の公園化のための整備されている環境であるが、アシ原が刈り取られると県内で絶滅する可能性がある。

参考文献

福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

川村多實二．1973．日本淡水生物学．780pp．北隆館．東京．

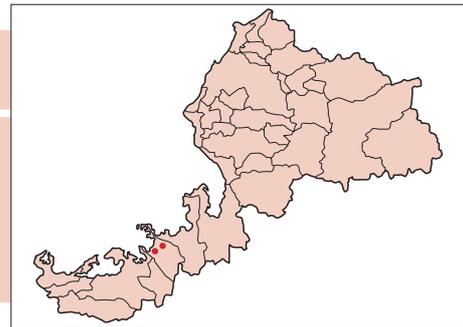
マルドブガイ

イシガイ目イシガイ科

Anodonta (Sinanodonta) calipygos Kobelt

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特性

殻長10cm、殻高7cm内外。殻長に比べて殻幅が非常に幅広い大型淡水二枚貝。殻頂部が著しく膨らみ、突き出る。殻頂から前後腹隅に向かって稜角がある。殻は薄く、光沢のある淡黄褐色から黒褐色。

タナゴ類の中でも、特にタイリクパラタナゴの産卵母貝となる。

生息状況

琵琶湖・淀川水系の固有種。繁殖しやすく各地に人為的に移殖され、東京、神奈川、島根、岐阜、奈良、岡山、広島、福岡にも分布している。

県内では三方湖と流入する別所川河口周辺に生息するが、生息数は激減している。1933年の標本が福井市立自然史博物館にあることから、それ以前に移殖されたものである。

存続を脅かす要因

止水域の埋め立て、湖沼の護岸工事等による生息環境の直接的改変、および生活廃水の流入等による湖沼の水質悪化や底質の変化が本種の主な減少要因である。

参考文献

福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

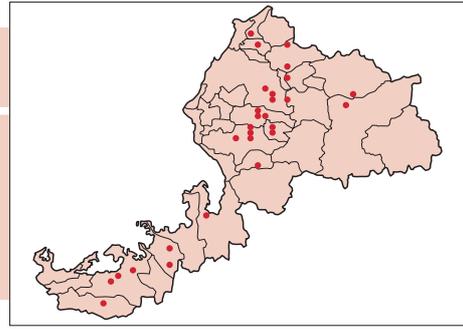
窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

マツカサガイ

イシガイ目イシガイ科
Inversidens japonensis (Lea)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特性

殻は卵円形で、殻長40～60mmで80mmを越える個体もある淡水二枚貝。殻頂は前方に片寄り、殻には擬主歯と後側歯があり、右殻の擬主歯は三角状に発達する。殻色は成長するにつれて黄褐色から黒褐色になる。殻表面には、種の最大の特徴である松笠に似た逆V字型の彫刻が顕著に発達し、成長と共に消滅する。移動能力が低く、水位の変動の影響を受ける岸部には少ない。妊卵期は7月が最盛期。

生息状況

北海道、本州、四国、九州の河川や用水路等の流水域に、飛び飛びに生息する日本固有種。県内では、現在、九頭竜川、足羽川、日野川、北川支流の太良庄川でも生息が確認されているが、生息個体数が激減している種である。

存続を脅かす要因

移動分散能力が低いため、大規模な圃場整備、河川改修等による成員の生息場所の砂礫質底の流失と水質汚濁、多量の農薬使用等による成長阻害が主な要因である。

生活史の初期段階の寄主となるコイ科、ハゼ科、産卵母貝となるタナゴ類等の減少。

参考文献

近藤高貴．1995．マツカサガイ．日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料． 巻：3-6．日本水産資源保護協会．

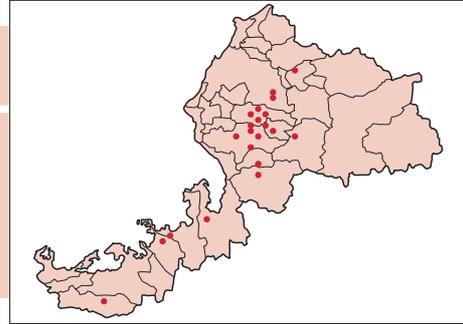
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

カタハガイ

イシガイ目イシガイ科
Pseudodon omiensis (Heimburg)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特性

殻長60～70mm前後の長卵形の淡水二枚貝。殻は黒色で、二枚の殻のつなぎ目が前縁に極端に片寄り、後縁は波うったように見え、分枝状の放射肋が認められ、擬主歯と後側歯のみで前側歯がない。内面は真珠光沢。緩やかな流れのある小河川や農業用水路、湖沼等の砂泥底に生息。清浄な水域を好み、幼生はコイ科やハゼ科に寄生し、タナゴ類の産卵母貝になる。

生息状況

本州、四国、九州の河川や用水路に、飛び飛びに分布する日本固有種。県内では九頭竜川水系の本流と足羽川、日野川、三方湖、久々子湖で生息確認記録があるが、近年、急激に分布域が狭められている。

存続を脅かす要因

移動分散能力が低いため、河川改修等による成員の生息場所の消失が主な要因。また、生活史の初期段階の寄主となるコイ科、ハゼ科、産卵母貝となるタナゴ類の減少も要因である。

参考文献

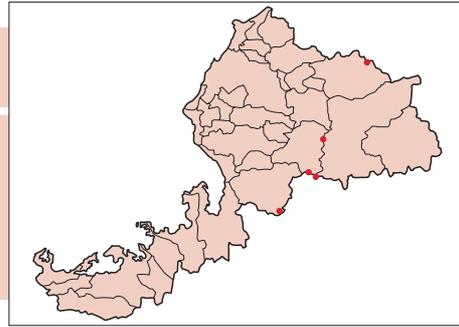
紀平 肇．1990．カタハガイ．琵琶湖・淀川淡水貝類．88-89．たたら書房

上西 実．1995．カタハガイ．日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料． 巻：7-12．日本水産資源保護協会．

フクイマメシジミ

マルスダレガイ目マメシジミ科
Pisidium kawamurae hukuensis (Mori)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー



種の特徴

殻高3mm，殻長4mm，殻幅2mm内外の卵三角形の淡水産の二枚貝。殻は黄白色から黄褐色の薄質半透明。前背縁は後背縁より長い。

生息状況

マメシジミ類は北海道，本州の1,000m級の亜高山帯に分布するが，20種類以上もあり再検されていないので区別が困難。県内では部子山の古池に生息していたが，古池が消滅し不明。部子山の千本杉の東側谷筋と，歩道近くの谷筋，冠山登山道の中腹の沼に生息が確認された。

存続を脅かす要因

歩道や公園化のための周囲の伐採による乾燥化，腐葉土の堆積する湿地の減少が主な要因である。

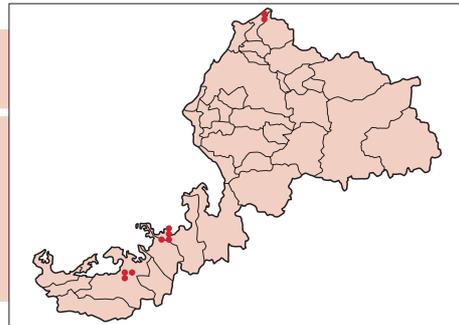
参考文献

福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．
川村多實二．1973．日本淡水生物学．780pp．北隆館．

イシマキガイ

原始腹足目アマオブネ科
Clithon retropictus (V.Martens)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧
環境省カテゴリー



種の特徴

殻径20～25mmのやや前後に長い半球状の貝。殻口は殻径の2/5を占め，内唇部を含めると2/3程にもなる。成長した個体では，殻頂が腐食され内層が露出する。礫上に黄褐色の卵塊を産む。

生息状況

本州の佐渡，関東以南の大きな河川の河口域や汽水の湖に生息する。県内では北川，南川，遠敷川の河口や，北瀉湖，久々子湖の汽水域に生息する種であるが，かなり上流の淡水域にも稀に生息する。生息域は減少している。

存続を脅かす要因

河川改修や護岸工事などによる生息地の改変と，上流からの工事による泥の流入や生活排水による水質汚染が，減少要因となる。

参考文献

福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．
川村多實二．1973．日本淡水生物学．780pp．北隆館．

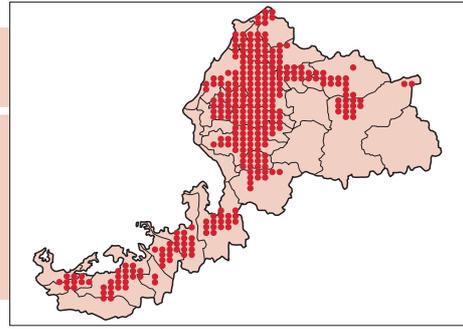
マルタニシ

中腹足目タニシ科

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens)

福井県カテゴリーー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリーー 準絶滅危惧



種の特徴

殻高55mm，殻径4.5mmの螺層が著しく丸みを帯びた卵円形の止水性のタニシ。縫合がくびれ，緑がかった黒い殻皮に，2・3個の目立たない螺肋と刻点状の窪みがある。卵胎生で6～7月頃40個前後産卵する。近似種の螺塔の高い大型のオオタニシと間違えられる。過去には食料とされた。

生息状況

本州から九州，台湾，中国本土，朝鮮の水田や池沼に分布する。乾燥や低温にやや強い。県内では平野部ではヒメタニシに置き換えられ，山麓の整備されていない水田や休耕田，池沼に生息地が限られてきている。

存続を脅かす要因

福井県の早場米産地としての稲作時期の変更や乾田化，圃場整備，農業用水のパイプライン化により，生息環境が改変されているのが主な減少の要因である。

参考文献

福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．141pp．福井県．

日本水産資源保護協会．1998．日本の希少な野生水生生物に関するデータブック．437pp．水産庁編．

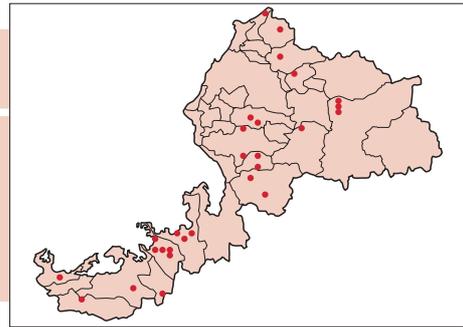
モノアラガイ

基眼目モノアラガイ科

Radix auricularia japonica (Jay)

福井県カテゴリーー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリーー 準絶滅危惧



種の特徴

殻高25mm，殻径20mmで蓋はなく，卵円形，薄質，半透明で右巻の淡水貝。軟体部は黄土色に黒紋があり，触覚は三角形で幅広い。殻口が殻高の4/5を占め大きく開く。

雌雄同体で他の個体と交尾し，6月頃から産卵し，1～20個の卵を水草，石の表面，枯れ枝等に産みつける。ヘイケボタルの餌にもなる。

生息状況

北海道，本州，四国，九州の貧腐水性から中腐水性の小川の淀みや池沼に生息。県内各地の環境の良好な小川や農業用水池などの水域に生息しているが，生息地，個体数とも激減している。

存続を脅かす要因

生活排水の流入や多量の農薬の使用による水質悪化，圃場整備や河川改修による小川のコンクリートU字溝化等による生息環境の改変が減少の要因である。

参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

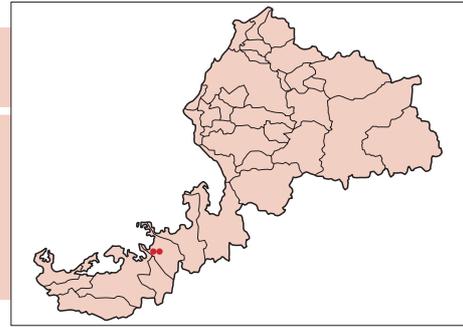
福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

フネドブガイ

イシガイ目イシガイ科
Anemina arcaeformis (Heude)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー



種の特徴

黒田標本によれば、殻長87mm、殻高43mm、横長の楕円形の淡水産の二枚貝。左右両殻はよく膨らみ、殻頂は背線のほぼ中央に位置し、背縁より高く膨らむ点で、日本産ドブガイと区別できる。

生息状況

山口県阿部町福賀の溜め池で採集されているのみ。県内では、淡水魚が生息するほど塩分濃度が低い三方町三方湖で、黒田により1961年（月日不詳）採集されている。三方湖に流入する河川や三方湖には、ドブガイが多数生息するので精査する必要がある。

存続を脅かす要因

ドブガイはタナゴ類の産卵母貝であり、グロキディウムがタナゴ類に寄生するので、河川や湖の自然の多様性の低下が本種の生存に悪影響を及ぼす。河川の汚染や護岸工事などによる生息環境の改変が本種の減少の要因である。

参考文献

波部忠重・増野和之．1991．フネドブガイ山口県に産す．ちりぼたん．22(1)．p5．

山下幸一・波部忠重．1993．若狭三方湖からのフネドブガイ．ちりぼたん．24(1)．p3．